

## 第 2 回 会津若松市上下水道事業経営審議会 会議録

1 日 時 令和7年 11 月 21 日(金) 13:30~16:00

2 場 所 会津若松市東山浄水場

3 出席者

審議委員 小田切 忠仁、佐久間 隆、根本 由紀夫、星 幹夫、  
赤木 敦、石光 真、加藤 孝明、荒木 智美、大須賀 美智子  
星 正大(10 名出席)

事務局 上下水道事業管理者 小林 英俊、局長 佐藤 陽一  
副局長兼経営企画課長 角田 章、副局長兼下水道施設課長 遠藤 博志  
総務課長 小林 圭輔、上水道施設課長 湯田 豊己  
経営企画課 副主幹 五十嵐 昭仁  
上水道施設課 主幹 遠藤 利哉、主幹 岸 裕司、主幹 長谷川 恵一  
下水道施設課 主幹 花泉 大輔、主幹 樋田 和之  
総務課 主幹 山内 斉、主任主査 遠藤 由美子

(次第)

1. 開会

2. 上下水道事業管理者あいさつ

3. 会長あいさつ

4. 審議

(1)報告事項

第1号「令和6年度公営企業の経営状況について」

第2号「会津若松市水道事業ビジョンについて」

第3号「会津若松市水道事業経営戦略について」

(2)その他

5. 閉会

6. 施設見学

■開会

■上下水道事業管理者あいさつ

■会長あいさつ

■審議

(1)報告事項

配付資料により事務局より説明、質疑応答を行った。

第1号は経営企画課長、第2号は総務課長、第3号は経営企画課長。

・質疑応答の内容

【令和6年度公営企業の経営状況説明後】

委員 水道事業も下水道事業も資本的支出は減っているということだと思うのですが、中身は建設改良費とか、色々あるみたいですが、どうして減っているんですか。  
一段落したってことですか。

経営企画課長 水道事業で言いますと、その年にやる、その工事は年次計画に基づいてやっている。波の問題だと思います。  
特に、2か年に渡って事業を行う場合、初年度と2年度に差が出る、初年度が少なく2年目が多い、そういうことがあると年度のバラツキが出てくる。

委員 わかりました。長期的に減っているわけではなくて、年度のバラツキですね。納得しました。ありがとうございます。

【水道事業ビジョン説明後】

委員 ビジョンの期間ですね。10年というけれど、これまでの10年、今後の10年では人口減少・社会情勢の変化のスピードはもっと速くなっていく。  
時代の変化や技術革新も早いので、5年なのか7年がよいのか分からないが、実行性のある「ビジョン」にするならば、計画の期間はもう少し短くしてはどうか。

総務課長 市の長期総合計画が、10年単位で計画をたてているものがあります。それを基に、各水道計画、福祉の計画、他の分野の計画も立てていることがありましたので、  
今回は10年でお示しさせていただきましたが、ご意見をいただきましたとおり、適宜見直す予定であります。10年そのままいくということではなく、その時期その時期で、  
皆様のご意見を伺って、直していくという考えであります。ご了承いただければと思います。

管理者 委員の言われるとおり、10年だと長いということはある。「見直しは必ず、やる。」と考えております。状況に応じまして、きちんと確認して参りたい。是非ともよろしく願いいたします。

委員 会津若松市の最上位の長期総合計画も10年。ただ中間見直しっていうのはある。  
その時に上下水道も入っているので、その中に含まれるってことは、あるのではないか。  
最上位の市の計画も、国の計画も、10年となっている。適宜、見直ところは見直していく。  
他の行政の分野と違って、「上下水道」って、割と設備産業ですよ。「設備をつくってどう回していくか。」というところですから、10年の計画をちゃんと立てる。そうすると、長期的に10年なのかと思う。

委員 今の内閣が新しい政策を考えていて、その財源を地方交付税の削減で想定しているようだ。  
交付税が減らされることで、水道料金の値上げになるのか、ならないのか。

委員 他会計からの繰入れの見込みでしょうか。

総務課長 水道事業は、利用者からいただいた料金の中で水道経営をしている、「独立採算制」をとっております。国からその交付金が入ってくるということはないのですが、「工事」のことを想定されていますか。

経営企画課長 工事の部分で、老朽化した水道管の更新の費用を一部ですが、国から交付金という形でいただいている。他に、医療機関の管の整備などで該当がある。  
水道は、下水道と比べてあまり交付金そのものの規模が少ないので、その分、財政的には国からもらっている比率はかなり低い。  
水道工事の対象となるのは、あくまでも「維持管理」。そういった部分の費用を賄っているが多い。  
ただ、危惧するとすれば、国が方向転換をして、今まで交付金として認められていた部分の事業が縮小され、交付金が入ってこなくなってしまうこと。  
こういった場合には、当然、管の入れ替え等に影響が出てくる。

委員 この「ビジョン」の中で、中身があるのが、ページで言うと、「3-32、3-33」の部分。  
現状から言って「経年的に悪化傾向であり、類似規模事業体よりも劣る」という状態にある話ですね。  
結局は、しばらくやっていない「水道料金の値上げの見通し」が必要であると、降って湧いてくる話になる訳です。それは、国と関係なく、会津若松市の上下水道局が決めなくてはならないことですね。

委員 色々な自治体の計画を見ているが、非常に標準的、ほぼ同じレベル感の、しっかりしたものが作られていると思います。  
その中で私が若干気になっているのが、「第6章の実現方策」の部分です。全体的に具体性が足りてないかなあと感じます。  
経営戦略の先取り部分が出てしまうかもしれませんが、  
この「ビジョン」のとおり事業を行うと、「近い将来値上げがあります。」と、そういう将来的値上げが前提となった計画・施策ですね。  
「ビジョン」は、そういうものなので、「どれも必要で、ちゃんとやらなきゃいけない。」これでは、大分ふんわりとしている。いつまでに、何をいくら？みたいなところをもっと具体的に記した方がよいと思います。  
例えば6-8の部分ですね。ポンプ施設とか管工事ですとか、どの自治体もやっていかなければならないところを、そこをやっていきます。  
でも、どこをどうやるの？中々見えづらいですね。

この計画・「ビジョン」を前提として、経営戦略が出てくることは、具体的な数字はあると思います。  
もう少し具体的にどこまでやるのか。例えば、経営プランの中で、「〇年度までに何をどこまでやる。」水道管の更新だったら、「この年度までに何キロやります。」

あと、当初の計画があって、実際の執行は 2/3 しかっていないことも、何か理由はあると思うのです。

そういうのをきちんと説明できないと、この計画に基づいて、将来的な値上げも見据えた議論をしていくな、事業の実施内容、金額みたいなものを個別にどっかの形で出していく必要があるのかと、そうしないと値上げの説明がつかないと思う。

経営企画課長 まず、色んな更新関係が具体性に欠けるのではないかという部分なのですが、より大きな枠組みの論点から始まって、少しふんわりとしたような形になっているかもしれませんが、資料でいうと「1-3」を見てください。

「ビジョン」の下に、具体的な施設設備については、「会津若松市水道施設総合整備計画」があり、その年次計画があって、さらにそれを細分化した「アクションプラン」が策定されております。

こういった部分を時点修正しながら、より具体的に今後こうなっていくんだと落としていくイメージです。

これから経営戦略の中で説明していきますが、具体的な財政状況、収支の状況、今後の見通しを含めてお伝えします。

今回、一旦は見直しをしますが、ずっと10年、そのまま何もしないわけではなくて、特に、経営戦略の数字は変わります。

東山浄水場の更新、大戸配水区再編と大型事業が控えている。その推進は今、想定している数字よりも動く可能性が大いに高いので、料金改定の時期が明らかになった時点で、もう一度戦略は見直しをします。

経営戦略をさらにブラッシュアップして、財政経営見直しを明らかにした上で、皆様に納得していただけるような収支状況をお伝えしたい。

委員 ビジョンには入っていないことですが、「水道事業の広域化」について、会津若松市としてはどんな考えですか。

上水道施設課長 会津若松市は、広域連携として、坂下町、美里町、広域圏の馬越浄水場と連携して色々な事業をやっています。

まず一つは、共同で業務委託を発注しています。衛星を使って、漏水情報の危険な箇所を共有したりしている。

2つ目は、施設の整備台帳をお互いに共有できるようにしています。

3つ目は、技術連携です。会津若松市や坂下町、それぞれの持っている技術をお互いに情報交換なり、アドバイス、あるいは知ろうという形で、毎年行っている。

今年度も坂下町の工事に出向いて指導したり、逆に坂下町の工事を勉強したり、それぞれの町・市で講義を行い、連携を強めています。

委員 会津って、南会津は別としても、「奥会津」地方を含めて、将来的には、このエリアは広域化の形でいったほうが、安全・安心の水を供給するという意味では、有効な手段でないかと思う。

【経営戦略の説明後】

委員 将来的に、ここもう5.6年の間に損益分岐点をきって、どんどんお金がなくなっていく。独自で水道経営ができなくなっていくという見通しが、もう立っているわけじゃないですか。これを私たち市民はどのように受け止めていくのか。先に、「今こういう状況ですよって、ここ数年ではこうなっていく。」というプランを知らされるのは、どういうタイミングで、一般市民はどのように知るのか。それを知っていく手段はあるのか。

あともう一つ。水道料金が改定されるフローがありますよね。それはどういう風に現実的になっていくのか。

将来は絶対に上がるだろうと見据えて、どういう風に一般市民は受け止めていってよいのか。

経営企画課長 収支の見通しのお話をしましたが、今現在、大きな事業である「東山浄水場の更新整備費用」が、どのくらいかかるのかを検討しています。

まだ確定したものではないので、そのふれ幅によっては、見通しも大分変わってきます。

また、「大戸配水区再編」と言いまして、大戸浄水場で水を作らないで、馬越浄水場の水を買って使用した方が効率的だとわかってきまして、そういった事業がどのくらいの費用がかかるのか、今年度末ぐらいにわかってきます。これらのことがそろってくると、経営の見通しが明らかになります。

今現在では、不確定ですので、お示しする段階ではなく、慎重にやっていきたい。

そう言いながらも、料金改定をしていく時は、この審議会を中心に議論していきますので、審議会委員にどのように知らせていくのか、まだ具体的な方向性はきまっていませんが、例えばの話で大変恐縮ですが、市長からの定例記者会見やタウンミーティングで、水道の経営状況や事業全体のことを説明しながら、状況を理解してもらえればと考えております。

委員 東山浄水場の更新は、令和12年から始まるのですか。

経営企画課長 今、現在の予定ではそのくらいで。

委員 その更新(東山浄水場)は、それで終わりですか。何年か後にまたありますか。

経営企画課長 1回やれば、しばらくはないです。

【上水道施設課長より、浄水場更新について補足説明】

令和12年から16年というのは、東山浄水場の更新の話になります。

会津若松市は、全部で5か所の浄水場があり、滝沢浄水場が平成30年に更新したばかりです。次が東山浄水場になります。

色々な施設がありますので、大きい施設の更新が令和12年から始まる計画になってい

ます。

委員 ビジョンの資料に戻るのですが、「6-20」で、棒グラフをみると、「構造物及び設備の更新需要」とありますが、説明書きで、「令和36-40年度の5年間で90億のピーク」と記載があります。

これは、「東山浄水場が更新時期を迎える」というのとは、別の話ですか？

また20年後(令和12年+20年)に更新を迎えるのか？

経営企画課長 資料が分かりづらくて申し訳ありません。

図6-11「構造物及び設備の更新需要」は、耐用年数どおりに更新した場合は、このくらいになるというグラフです。実際には耐用年数以上に使っているので、このグラフどおりにはないです。

委員 東山浄水場をリニューアルする時は、水を全部止めてしまうのか。どっかからもってくるのか。

上水道施設課長 「今の施設を生かしながら、新しい浄水場をつくる。」という手法で、工夫をしながらやっていく検討をしています。

委員 感想になりますが、先ほど、「広域組合の馬越から買ったほうがいいのか、」という話がありましたが、今後は、人口が減っていく訳ですから、何か工夫で、設備投資を減らせることがあったなら、やった方がよいのではないかと思います。

ちょっと、管理を本格的に考えたほうがよいかもしれませんね。

「更新します。」って言った方が、市民は安心するけど、お金があるとは限りませんし。

金利は、これから上がりますから、最低限にしないと、と思いました。

委員 他に、ご意見ご質問ないでしょうか。

色々これから、より明らかになっていく。説明の機会もたくさんある。

ということで、我々だけでなく、市民全体に対しても説明していくということですので、そこに期待したいと思います。ありがとうございます。

その他に、もしなければ、議事を終わりたいと思います。

よろしいでしょうか。

議長の任を解かせて頂きます。ありがとうございました。

■閉 会

■施設見学(東山浄水場見学)